

# 2020 新体制発足!

## 「誇り」持って業務に取り組める職場を創ろう!

**国土交通省  
管理職ユニオンニュース**

No341  
2020年  
7月15日

【発行】  
国土交通省管理職  
ユニオン

【所在地】  
東京都千代田区  
霞ヶ関2-1-2 中央  
合同庁舎2号館  
TEL 03-3509-1138

【Email】  
k-union@alpha.ocn.ne.jp

【ホームページ】  
<http://www.k-unionnetwork/>

第三三回定期全国大会の議案採択及び役員選挙について六月二十五日～二十六日に実施され、代議員全員の賛成で二〇一九年度の運動の総括及び二〇二〇年度の運動方針(案)、二〇二〇年度財政方針(案)が採択されました。また、二〇二〇年度中央執行委員役員についても全員「信任」されました。

委員長には、新たに近畿支部の小原さんが選出され、事務局長に北陸支部の池田さんが二期目を迎え、新体制が発足しました。

### ■新委員長あいさつ

新たに委員長に選出された近畿支部琵琶湖分会の小原です。

委員長推挙を受け、「定年(六〇歳)まで、後三年と半年。何も苦勞を背負わなくても…」と思いい度は固辞しました。しかし、六〇歳以降の生活、再就職にも不安があり、ユニオン

の仲間とともに頑張ってみようと思

い決意しました。近年、気候変動の影響で災害

が多発しています。職場は台風

が来る度に疲れ果てている感じがしています。昨年、台風が直撃した事務所に働く仲間から、一ヶ月以上の連続勤務や、二四時間勤務が何日も続いたとい

う悲痛な叫びも聞こえてきました。その度に人員の不足を痛感しています。

災害復旧予算が配置され、復旧の業務が行われていくのですが、職場は予算執行のス

### 2020年度 国土交通省管理職ユニオン役員・事務局員

| 役職    | 氏名    | 支部 | 所属等       | 年齢 |
|-------|-------|----|-----------|----|
| 委員長   | 小原 良一 | 近畿 | 琵琶湖河川     | 56 |
| 副委員長  | 笠井 良彦 | 中部 | 木曽川上流河川   | 56 |
| 副委員長  | 亀井 稔  | 近畿 | 近畿技術事務所   | 56 |
| 副委員長  | 深澤 洋二 | 近畿 | 豊岡河川国道    | 58 |
| 副委員長  | 根本 悟  | 地理 | 東北地方測量部   | 55 |
| 事務局長  | 池田 義一 | 北陸 | 信濃川河川     | 54 |
| 事務局次長 | 星野 豊  | 関東 | 横浜国道      | 60 |
| 事務局次長 | 安藤 浩照 | 中部 | 多治見砂防国道   | 53 |
| 執行委員  | 佐藤 英徳 | 東北 | 仙台海川国道    | 53 |
| 執行委員  | 南谷 達也 | 北陸 | 企画部       | 45 |
| 執行委員  | 小林 治  | 関東 | 利根川上流河川   | 58 |
| 執行委員  | 神村 章治 | 中部 | 多治見砂防国道   | 52 |
| 執行委員  | 菊池 弘  | 近畿 | 大和川河川     | 52 |
| 執行委員  | 末永 敦  | 中国 | 高梁川・小田川河川 | 54 |
| 執行委員  | 向井 洋一 | 四国 | 土佐国道      | 52 |
| 執行委員  | 玖村 徳則 | 九州 | 鹿児島国道     | 58 |
| 執行委員  | 廣瀬 勝  | 地理 | 企画部       | 57 |
| 会計監査  | 黒川 泰嗣 | 関東 | 相模川水系ダム   | 50 |
| 会計監査  | 波多野 浩 | 中部 | 静岡河川      | 58 |

|      |        |    |        |    |
|------|--------|----|--------|----|
| 事務局員 | 上林 喜美夫 | 関東 | ユニオン本部 | 65 |
| 事務局員 | 山本 健二  | 近畿 | 淀川河川   | 62 |

ビードが重視され、時にはハラハラまがいに強要されます。そればかりが原因ではありません。あなたが、働きがいが見いだせず、国土交通省を辞める仲間を沢山見えました。

本来、国土交通省は「国民の命と財産を守り、安全・安心を確保する」更に「道路等良質な社会資本を供給する」誇りある仕事をやっています。

定年まで残す期間は少ないですが、国土交通省の仕事に誇りを持って取り組むために、更には、後に続く若い世代が誇りを持って取り組めるように、「要員の確保」「職場の民主化」「処遇改善」運動の先頭に立ち、取り組んでいきたいと思

います。

私は元より微力です。ユニオン組合員の協力と、職場の皆さんのご理解で、職場をより良くしていきたいと思

# ピンチをチャンスに コロナ禍で、行政にもゆとりある体制が必要と世論が広がっている！

副委員長の3年間と委員長の2年間、組合員と職場の皆さまには、いろいろとお世話になり、ありがとうございました。

特に委員長2年間の出来事では、国土交通省発足後初となる地方整備局の増員が実現したこと、近畿・北陸で行政措置請求の勝利判定により、管理職特別勤務手当の在宅での支給を勝ち取ったこと、全ての支部においてフルタイム再任用が実現したことなどユニオンの地道な運動が実を結び嬉しく思っています。

ただ、コロナ禍により集まって定期大会（団結パーティーも含め）が開催でき出来なかったことが、少し残念に思うところではあります。

コロナ禍により雇用など国民生活は厳しくなり、公務員への風当たりがきつくなるかもしれませんが、医療や保健所を始め脆弱な国の体制が明らかとなりました。新自由主義によるギリギリの体制ではなく、ゆとりのある体制が必要であることに多くの国民が気付き始めています。我々、防災官庁も同じです。ピンチをチャンスに変え、今年度に引き続き地方整備局の増員、さらに国土地理院の大幅増員を勝ち取りましょう。

また、先送りされた定年延長など60歳以降の働き方に関する要求実現、誰もが6級昇格の次を目指す処遇改善政策、組織拡大など多くの課題がありますが、来年3月に定年退職を迎えるため、申し訳ありませんが、小原新委員長をはじめとする新体制に委ねたいと思います。

私事ではありますが、この5年間で日本百名山の内49座の頂上に立つことが出来ました、完登を目指し各地に出発しますので、何処かの山でお目にかかれたらと思います。

最後に、管理職ユニオンの益々の発展と皆様のご活躍をお祈りし、退任の挨拶とさせていただきます。

共にがんばりましょう。

国土交通省管理職ユニオン第8代中央執行委員長

近畿支部 近畿技術分会 上原 秀樹

## ★編集後記★

▼「まだ、終息には至っていない」世界保健機関（WHO）のテドロス事務局長の言葉です▼日本では緊急事態宣言が解除されて1カ月が経過。通勤・通学が再開し、感染防止と社会・経済活動を両立させる「ポストコロナ」「ウィズコロナ」と言われます。▼しかし、世界に目を転じれば、むしろ感染爆発の勢いは強まっています。米ジョンズ・ホプキンス大学の統計によれば、6月末に、全世界の感染者が1000万人を超え、死亡者が50万人を超えたとのこと▼冬季の南半球に位置する中南米や、酷暑の中東や南アジアでも感染者・死亡者が急増。▼すでに13万人近くが死亡した米国でも、勢いは止まりません▼一方、日本を含む西太平洋地区は、感染者・死亡者数ともに低く抑えられています。▼SARSやMERSといった新型ウイルス拡大の痛苦の教訓が生きています。▼ただ、日本については、政府の医療・検査体制も水際対策も不十分です。▼国民の自覚的な努力によるところが大きい▼日本の経済の中心・東京の感染拡大が収まりません▼国は責任ある対策を打ち出すべきです。

(R)